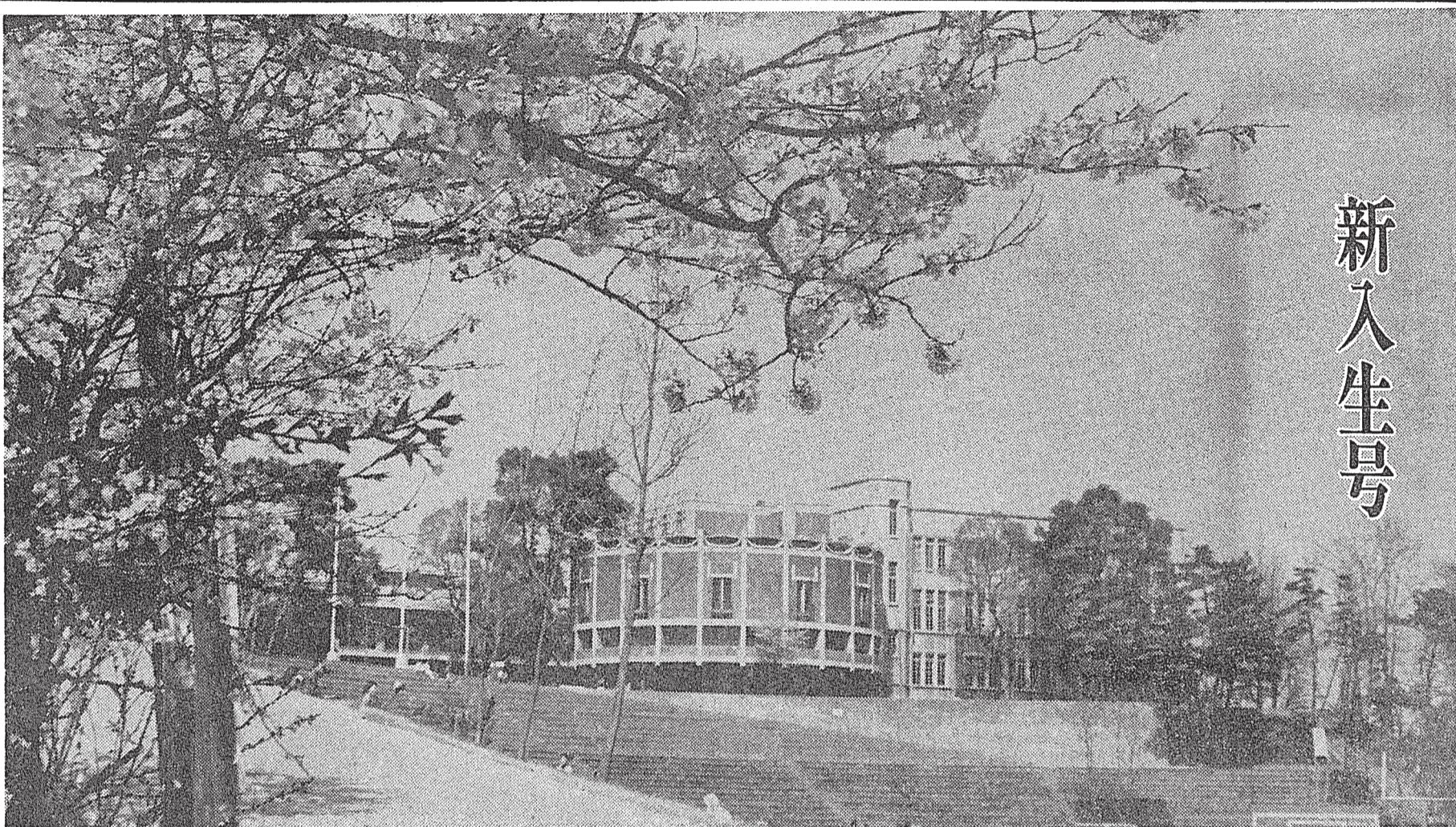


第 55 号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学庄報委員会



新入生号

のぼる志願者の中から、本学の榮冠をえられ
に、心からお慶びを。 諸君は、この入学に
陰に陽に愛情をもつて、まねなかつた御父
し、先ず感謝の意を表
りましよう。

さて、諸君は大学
的をどこにおいてい
か。ただ、大学へす
ることにしてきたがた
同時に、自らの目的

先生を多く見受けられますが、通じて小・中・高校と十二年間ひたすら大学進学を目指し受験街道をまっしぐらに駆けてきた諸君にとって、そのノールにたどりついた今、しばしの休養が必要だとも考えます。しかし、レジャーも休養も大学への入学の目的であつてはならないことはいうまでもあります。なぜかといふと、のみを知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を開拓させることへ入学する旨が、入学の目的であるのです。

知的能力の創造を

今年の入試状況

工学部 四二二四(三・五)
内、機械工学科五四二、機械
工学第二学科九七、電気工
学科四一〇、電子工学科四九
四、化学工学科三四、応用
化学科五一〇、金属工学科四
二〇、管理工学科三〇二、土
木工学科四〇三、建築工学科四
名(五・〇%)、工学部の四一名
(三・五%)、計一九六四名(合
〇・九%)、計一九六四名(合
格者総数の一四・〇%)であり
昨年の一七九二名をしのぎ、女子
学生の増加傾向は依然つづいてい
る。また男子志願者に対する男
子合格者の比率が一八・五%であ

八%と高いのも興味をひく。

合格者中、浪人は一部で六・七八一名、総数の五・一・八%、二部で八・四四名、七・一%、平均で五四・三%とその半ば以上を占めている。これを志願看護段階でみると一部で四・四・二%、二部で六・三・三%と、合格者段階の方が高く、また、現役志願者に対する現役合格者の比率が、一部で一六・〇%

浪人のそれは一部で三・一・六%、二部で二・一・八%と高い。本学においても浪人組の優位がみられる。なお以上の合格者数はそのまま入学者数を示すものではない。和五十年度の入学者数が最終的確定するには、本学での学業開設の意思表示である履修届の提出待たなければならぬ。

大学院、博士課程・修士課程

十六万七千人である。関大だけをとっても「在学生」、二部計約一万四千人。君たちは」の本大學生の中の一人である。かつての大学生は、ただ大学生であるというだけで知識階級に屬するものとみなされたが、試みに石を投げれば大学生に当たるといふ今日、それは違ひ夢となつた。いつの頃からか、大学生の名に植しない、いわば、「旅行者」の如きの大學生（ドミル）が出来た。ここに要す

知的能力の創造を

のものであります。したがて、
大学の構成員は、この大学の自治
を尊重し、育成しなければならぬ
いとものに、これが濫用を戒め
ねばなりません。いやしも、暴
力によって、自己の主張を他に押
しつけようとするが如き行動にく
みする」とは、大学の自治権を尊重
することからもっととも遡るもので
あります。大学の自治のもじ、真
理探求へのひたむきな情熱を燃
し、青春のうるおいある学園にし
ていきたいものであります。

若者はまさに始まろうとする四年
間の新しい夢を見る所じだれか。
ここには学業にスポーツにとその
気になりさえすれば、君たちの若
いエネルギーをぶつける対象をい
くべでも見つけることができるは
ずである。▼昨年五月一日現在
全国の大学生数は百九十八万九千

自發的思考活動と 知的能力の創造を

吉く

校や大学で教えられることは教育ります。エマーリンは「小・中学修得を、大学教育への期待であります。」
目的とする（学校教育法第五十）と といひて、大学には「大学の自由権」がありますが、これは政治権
二条）、という極めて壮大な理想 力から、大学における教育・研究
をもつた教育を行つたのであり の自由を保障するとともに、大学
造せしめる」とだと考へます。ま
た論語の中にも「学びて思はざれ
ます。したがつて、大學では一方
は、即ち國（くに）べく、思つて學
ばざれば、即ち惑（あやう）し」
で知識を授けるとともに、それを
実社会に應用しうる能力を養成す
という名句があり、読書や授業に
大學の自治は、ひたすらな學理

合格者有數は次の通りである。
博士課程
法学研究科 五名
文学研究科 九名
経済学研究科 一名
商学研究科 三名
社会学研究科 五名
工学研究科 二名

部落解放論	
テ一マ	民族差別部落の起源
II	部落差別の本質
II	部落解放と教育
II	宗教における差別と貧富の問題
II	部落解放総合計画と行政上の諸問題
II	部落解放と民族差別
II	部落差別と生産関係
II	差別の実態とその認識
II	部落解放地域計画
II	部落解放の意義
II	解放の論理と思想性
II	差別の認識の視点
II	水平社の創立と認識
II	新兵闘争と変革
II	「解説の主体と思想」
II	「総括」
II	「解説の文化と根拠地」

東西文化の比較と交流
<総論>
テ一マ
エジプト文化の根源にあるもの
西洋文化の根源にあるもの
中国文化の根源にあるもの
インド文化の根源にあるもの
日本文化の根源にあるもの
比較文化論の諸問題

<比較論>
テ一マ
言語構造に現われた東西精神の比較
近代論理学とインド哲学
西洋思想に現われた東洋
江戸文芸と現われた近代的精神
キリスト教と仏教
西洋哲学の立場と東洋哲学の立場
西洋近代文学における東洋
東西の詩精神
科学技術史からみた東洋と西洋
建築様式の風土的考察

<交流論>
テ一マ
東西における法と想する諸問題
高松塚壁画をめぐって
江戸時代における日中貿易と当時の世界
近世中国における日本と古の交渉
東洋におけるギリシャとインドの宗教的交渉
イスラム文化の東洋及び西洋への影響
外国人の日本人
西洋美術と東洋美術の交流
東西における革命思想の比較と交流
中国科学技術史におけるヨーロッパとの比較

公害と環境問題
<Aチーム>
テ一マ
公害規制と紛争処理の法
海洋汚染の規制と被害者補償
人間生存と自然環境
環境問題とその対策

<Bチーム>
テ一マ
環境保全と公害規制
公害問題の歴史的考察
自然と人間—思想史的考察
最近の空港騒音問題

総合コース

「文学IIでは総合講座」

他文学への興味を補う

将来の課題

一段階のテスト

公害と環境問題

両者の十分な結合が必要

総合コースの組織づくり

準備期間をつきよ

専門・一般に特定化せず

総合コースを担当しよう

綿密に検討

準備期間をおき

公害と環境問題

両者の十分な結合が

必要

総合コースを担当しよう

準備期間をおき

公害と環境問題

